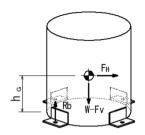
電気温水器耐震強度計算書

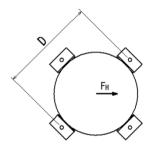
1.アンカーボルト選定及び検討条件(設計用震度は局部震度法による)

 製品型式	ESFE-220			
表吅至式			ESFK-220	
設置階		_	1階及び地下階	
設計用 水平震度	K _H	_	0.6	
アンカーボルト本数		本	4	
アンカーボルト径	d	cm	1.2	
アンカーボルト種類		_	あと施工接着系アンカーボルト (M12)	
設置場所		_	堅固な基礎	
埋込長さ	Н	cm	10	
穿孔径	d2	cm	1.45	

2 檢討結里

<u>4.快的恒未</u>						
ボルト材質					SS400	ステンレス
項目	(単位)				33400	X120X
製品質量(運転質量) M			kg	322		
機器	の重量		W	kN	3.16	
設計	用 水平地震力		F _H	kN	1.89	
設計	用 鉛直地震力		F _V	kN	0.95	
重心	高さ		hg	cm	77.5	
アン	カーボルト間距離		D	cm	61.0	
アン	カーボルト本数		n	本	4	
アンカーボルト断面積 A			Α	сm [‡]	1.13	
せん断力 Q		Q	kN	0.47		
	アンカーボルト	計算値	Rb	kN	1.85	
	引抜荷重	許容値	Та	kN	10.25	
判	せん断応力	計算値	τ	kN∕c m i̇́	0.42	
		許容値	fs	kN∕c m i̇́	10.1	9.12
	引張応力 計算値		σ	kN∕c m i̇́	1.64	
定		許容値	ft	kN∕c m i̇́	17.6	15.8
	引張とせん断力を同時に受ける ボルトの許容引張応力度	許容値	fts	kN/cm²	23.97	21.45
	判定結果			_	合格	合格





計算モデル図

計算式

$$W= \frac{M \times 9.8}{1000}$$

FH= KH×W

$$Fv = FH \times \frac{1}{2}$$

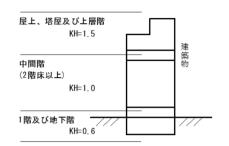
$$Q = \frac{F_H}{n}$$

Rb=
$$\frac{4}{n \times D} \times F_H \times h_G - \frac{W-F_V}{n}$$

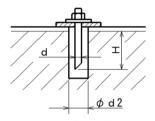
Ta=
$$\frac{Fc}{g} \times \pi \times d2 \times H$$
 (Fc=1. 8kN/cm²)

$$\tau = \frac{0}{4}$$

$$\sigma = \frac{Rb}{A}$$



局部震度法による設計用震度 | 地域係数=1



アンカーボルト施工図 (あと施工接着系アンカーボルト)

判定基準

- 1. RbくTa(選定したアンカーボルトの短期許容引抜力)
- τ < fs (fs:ボルトの短期許容せん断応力)

 $= 10.1 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$

= 9.12kN/cm² ・・・ステンレスボルト

3. σ < (ftとftsの最小のもの) ただし, fts=1.4ft-1.6 τ

(ft:ボルトの短期許容引張応力) $= 17.6 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$

= 15.8kN/cm ・・・ステンレスボルト

上記を満たす場合・・・・・合格

上記を満たさない場合・・・不合格

3.注記

上記検討計算の許容引抜荷重は、「建築設備耐震設計・施工指針」(2014年度版)によるものです。

本製品は「建築設備の構造耐力上安全な構造方法を定める件の一部を改正する告示(平成24年国土交通省告示

第1447号:2012年12月12日公布)」に準拠し、第五第4号の計算ルートに基づき安全上支障のないことを確認しています。

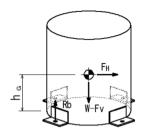
電気温水器耐震強度計算書

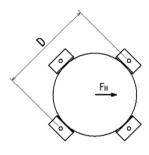
1.アンカーボルト選定及び検討条件(設計用震度は局部震度法による)

製品型式			ESFE-220	
			ESFK-220	
設置階		ı	中間階	
設計用 水平震度	K _H	ı	1.0	
アンカーボルト本数		本	4	
アンカーボルト径	d	cm	1.2	
アンカーボルト種類		_	あと施工接着系アンカーボルト (M12)	
設置場所		_	堅固な基礎	
埋込長さ	Н	cm	10	
穿孔径	d2	cm	1.45	

2 検討結果

:12						
ボルト材質				SS400	ステンレス	
項目(単位)					33400	X120X
製品質量(運転質量)			М	kg	322	
機器	の重量		W	kN	3.16	
設計	用 水平地震力		F _H	kN	3.16	
設計	用 鉛直地震力		F _V	kN	1.58	
重心	る高な		hg	cm	77.5	
アン	カーボルト間距離		D	cm	61.0	
アン	カーボルト本数		n	本	4	
アンカーボルト断面積			Α	сm [‡]	1.13	
せん断力		Q	kN	0.79		
	アンカーボルト 計算値		Rb	kN	3.61	
	引抜荷重	許容値	Та	kN	10.25	
判	せん断応力	計算値	τ	kN∕c m ⁴	0.70	
		許容値	fs	kN∕c m i̇́	10.1	9.12
	引張応力	計算値	σ	kN∕c m i̇́	3.20	
定		許容値	ft	kN∕c m ⁴	17.6	15.8
	引張とせん断力を同時に受ける ボルトの許容引張応力度	許容値	fts	kN/cm²	23.52	21.00
	判定結果		_	合格	合格	





計算モデル図

計算式

$$W= \frac{M \times 9.8}{1000}$$

FH= KH×W

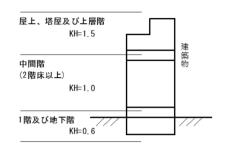
 $Fv = FH \times \frac{1}{2}$

 $Q = \frac{F_H}{n}$

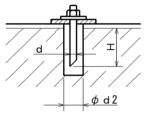
Rb=
$$\frac{4}{n \times D} \times F_H \times h_G - \frac{W-F_V}{n}$$

Ta= $\frac{Fc}{g} \times \pi \times d2 \times H$ (Fc=1. 8kN/cm²)

 $\sigma = \frac{Rb}{\Lambda}$



局部震度法による設計用震度 | 地域係数=1



アンカーボルト施工図

(あと施工接着系アンカーボルト)

判定基準

- 1. RbくTa(選定したアンカーボルトの短期許容引抜力)
- τ < fs (fs:ボルトの短期許容せん断応力)

 $= 10.1 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$

= 9.12kN/cm² ・・・ステンレスボルト

3. σ < (ftとftsの最小のもの) ただし, fts=1.4ft-1.6 τ

(ft:ボルトの短期許容引張応力)

 $= 17.6 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$ = 15.8kN/cm ・・・ステンレスボルト

上記を満たす場合・・・・・合格

上記を満たさない場合・・・不合格

3.注記

上記検討計算の許容引抜荷重は、「建築設備耐震設計・施工指針」(2014年度版)によるものです。

本製品は「建築設備の構造耐力上安全な構造方法を定める件の一部を改正する告示(平成24年国土交通省告示

第1447号:2012年12月12日公布)」に準拠し、第五第4号の計算ルートに基づき安全上支障のないことを確認しています。

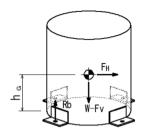
電気温水器耐震強度計算書

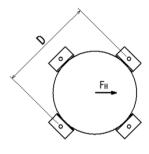
1.アンカーボルト選定及び検討条件(設計用震度は局部震度法による)

製品型	ESFE-220		
衣加 主式			ESFK-220
設置階		_	屋上、塔屋及び上層階
設計用 水平震度	K _H	-	1.5
アンカーボルト本数		本	4
アンカーボルト径	d	cm	1.2
アンカーボルト種類		_	あと施工接着系アンカーボルト (M12)
設置場所		-	堅固な基礎
埋込長さ	Н	cm	10
穿孔径	d2	cm	1.45

2 検討結果

ボルト材質					SS400	ステンレス
項目(単位)					33400	7/207
製品質量(運転質量) M			М	kg	322	
機器	の重量		W	kN	3.16	
設計	用 水平地震力		F _H	kN	4.73	
設計	用 鉛直地震力		F _V	kN	2.37	
重心	る高々		hg	cm	77.5	
アン	カーボルト間距離		D	cm	61.0	
アン	カーボルト本数		n	本	4	
アンカーボルト断面積		Α	с m [‡]	1.13		
せん	せん断力		Q	kN	1.18	
	アンカーボルト 計算値 Rb		Rb	kN	5.82	
	引抜荷重	許容値	Ta	kN	10.25	
判	判 せん断応力 計		τ	kN/cm²	1.05	
		許容値	fs	kN∕c m ⁴	10.1	9.12
	引張応力	計算値	σ	kN/cm²	5.15	
定		許容値	ft	kN/c m ²	17.6	15.8
	引張とせん断力を同時に受ける ボルトの許容引張応力度	許容値	fts	kN/cm²	22.96	20.44
	判定結果	•	_	合格	合格	





計算モデル図

計算式

$$W= \frac{M \times 9.8}{1000}$$

FH= KH×W

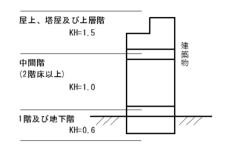
 $Fv = FH \times \frac{1}{2}$

 $Q = \frac{F_H}{n}$

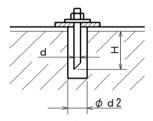
Rb= $\frac{4}{n \times D} \times F_H \times h_G - \frac{W-F_V}{n}$

Ta= $\frac{Fc}{g} \times \pi \times d2 \times H$ (Fc=1. 8kN/cm²)

 $\sigma = \frac{Rb}{\Lambda}$



局部震度法による設計用震度 | 地域係数=1



アンカーボルト施工図

(あと施工接着系アンカーボルト)

判定基準

- 1. RbくTa(選定したアンカーボルトの短期許容引抜力)
- τ < fs (fs:ボルトの短期許容せん断応力)

 $= 10.1 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$

= 9.12kN/cm² ・・・ステンレスボルト

3. σ < (ftとftsの最小のもの) ただし, fts=1.4ft-1.6 τ

(ft:ボルトの短期許容引張応力)

 $= 17.6 \text{kN/cm}^2 \cdot \cdot \cdot \text{SS400}$

= 15.8kN/cm ・・・ステンレスボルト

上記を満たす場合・・・・・合格

上記を満たさない場合・・・不合格

3.注記

上記検討計算の許容引抜荷重は、「建築設備耐震設計・施工指針」(2014年度版)によるものです。

本製品は「建築設備の構造耐力上安全な構造方法を定める件の一部を改正する告示(平成24年国土交通省告示

第1447号:2012年12月12日公布)」に準拠し、第五第4号の計算ルートに基づき安全上支障のないことを確認しています。